「市長と一緒にティータイム」対話概要

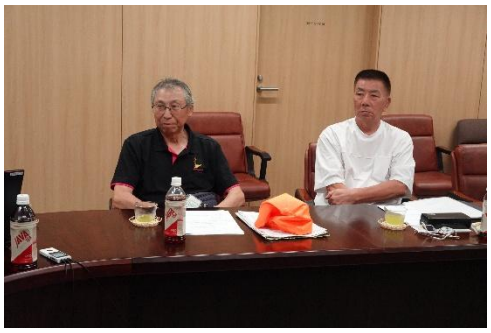
団 体 名　　袖ケ浦市レクリエーション協会
実施日時　　令和８年８月２０日（木）午後４時１５分～５時３０分
実施場所　　市役所政策会議室
出 席 者　　レクリエーション協会　１０名
　　市　　３名
テ ー マ　　レクリエーション活動普及と担い手作り

意見交換

市長：レクリエーション協会設立の背景を教えてください。

レク：袖ケ浦町の時代に町主催のレクリエーション養成講座を受講したことを機に設立しました。

市長：現在、会員は何名ですか。



レク：現在の会員数は３３名で、今この場にいるメンバーを中心に活動しています。君津地域４市をはじめ、市原市など、さまざまな地域から参加しており、木更津市レクリエーション協会にも加入している方もいます。

市長：他市からも講師の依頼がありますか。

レク：他市からも、公民館や生涯学習の分野において、イベントの実施や子ども向けのレクリエーション活動などについて、依頼を受けることがあります。

市長：活動予定表を見ると、土日・平日を問わず多くの予定が入っていますね。

レク：レクダンスは、２０年近くにわたり、継続して活動しています。

市長：先ほどレクダンスを体験しましたが、動きがとても難しかった一方で、身体を動かすことの楽しさを実感しました。また、失敗しても「上手になろう」と前向きに取り組める雰囲気がとても良いと感じました。



レク：レクダンスは、いつも脳トレだと思って踊っています。

市長：身体を動かすだけでなく、頭で考えながら動くことは、とても良い取り組みだと思います。

レク：レクリエーションの良いところは、「失敗がない」ところです。踊りを間違えてしまうこともありますが、それも含めて楽しむことができます。

市長：自分自身が楽しむことも大切ですが、放課後児童クラブなどでレクリエーション活動を行うことで、より多くの人にレクリエーションの楽しさを知ってもらえると思います。

レク：設立当時は、自分たちでイベントを企画していましたが、会場の確保や参加者を集めることがとても大変でした。そこで、公民館や自治会などでレクリエーション協会のＰＲ活動を行ったところ、各公民館から声をかけていただけるようになりました。公民館などがイベントを企画するようになったことで、会場の確保や参加者募集の負担も軽減されました。

市長：レクリエーション協会として長年にわたり活動を積み重ねてきた成果が、交流センターやさまざまな団体から講師の依頼をいただくことにつながっていると思います。

レク：以前は平川地区を中心に活動していましたが、昭和・長浦地区にも活動を広げようとしていた頃、市で総合型地域スポーツクラブを設立することになりました。その際、当時の体育振興課から協力依頼があり、総合型地域スポーツクラブの活動に関わることとなり、それ以来、地域の皆さんとともに楽しく活動しています。

市長：総合型地域スポーツクラブは、スポーツやレクリエーションを通じて年齢や性別を問わず、誰もが気軽に楽しめるところが良いと思います。

レク：現在の指導者養成講座は、対面５日間、オンライン５日間の計１０日間で実施しています。以前は市主催で指導者養成講座を実施していたので、今後の指導者の養成・確保に向けて、行政と連携した指導者養成講座の開催をお願いします。

市長：現在、指導者養成講座の受講希望者の状況はどうですか。

レク：若い世代の受講者を増やしたいのですが、現状では 65 歳以上の受講者が多いです。若い世代にはレクリエーション協会の存在を知らない人が多いため、まずは指導者を増やし、活動の認知度を高めることで、若い世代にも関心を持ってもらえるのではないかと思います。

市長：最近の指導者養成講座の内容について教えてください。



レク：最初にアイスブレイキングを実施し、その後に講義と実技講習を行います。折り紙やボッチャなどの体験をしながら、レクリエーションの進め方や企画・運営する方法も学びました。
市で開催する場合は、受講生に合わせて開催日時を設定できます。

市長：指導者養成講座をすぐに開催することは難しいですが、担当課と検討してみます。

レク：協会のメンバーでは、いつも流行りの種目を探しています。最近では、ピックルボールが人気で、１０月３日に開催される「子どもスポーツフェスタ」では、昭和ふらっとスポーツクラブによる体験会も行われます。

市長：テニスやバドミントンのような種目ですか。

レク：テニス、バドミントン、卓球の要素を組み合わせたスポーツで、プラスチック製のボールを板状のパドルで打ち合います。幅広い年齢層が気軽に楽しめ

ることから、人気が高まっています。

レク：以前は、各自治会にスポレク部門があり、地域住民を対象としたスポーツやレクリエーション活動が行われていましたが、現在、スポレクを実施している自治会は長浦地区と中富地区に限られています。そのため、地域でイベントを企画・実施する担い手が減少し、レクリエーション協会への依頼が増えています。今後は、次の担い手を育てるためにも、自治会と協力していく必要があると思います。

市長：自治会では、定年年齢の引き上げや仕事などにより、活動への参加が難しい世代が増えています。今後は幅広い年代が活動に関わり、その中からレクリエーション活動を「やってみたい」と思う人が出てくることが理想です。まずはレクリエーション活動を知ってもらう機会が重要だと思います。

レク：レクリエーション活動を知ってもらうためには、どのような方法が効果的ですか。

市長：地域の皆さんの活動を共有する場として、市民活動サポートセンター「そでのわ」に登録すると、各団体同士のつながりやさまざまな支援を受けることができます。また、ＳＮＳなどで情報発信すると若い世代へ情報が届くと思います。

レク：市民交流広場では、身体を動かすことはできますか。



市長：重いものを投げたりするのは難しいですが、外のスペースも使えますので、ぜひ「そでのわ」に登録していただき、ご活用いただければと思います。

市長：本日は、ありがとうございました。